

宮崎労働局発表  
平成 24 年 4 月 27 日  
テレビ・インターネット 4 月 27 日解禁  
新聞 4 月 27 日解禁

【照会先】  
宮崎労働局労働基準部健康安全課  
課 長 西本 耕一  
地方産業安全専門官 川原 正和  
(代表電話)0985(38)8825  
(直通電話)0985(38)8835

## 平成23年の宮崎県内における死傷労働災害発生状況

宮崎労働局(局長 小林泰樹)は、宮崎県内における平成 23 年の労働災害の発生状況を取りまとめた。

労働災害による死亡者数は 3 年ぶりに減少、死傷者数は 2 年ぶりに減少したものの、重大災害(\*)は 2 年ぶりに増加した。

\* 重大災害: 一時に3人以上の労働者が業務上死傷又はり病した災害

### 1 平成23年の死亡者数は 8 人

・平成 23 年の労働災害による死亡者数は 8 人で、平成 20 年以來 3 年ぶりに減少に転じた。  
・業種別にみると、建設業、林業、第三次産業(商業、保健衛生業、接客娯楽業等)の順に多く、事故の型別にみると、「転倒」、「墜落・転落」、「切れ、こすれ」の順で多く発生している。

### 2 死傷者数は 1, 352 人で 2 年ぶりに減少

・死亡者を含んだ休業4日以上死傷者数は 1,352 人で、平成 21 年以來 2 年ぶりに減少に転じた。  
・業種別にみると、第三次産業(商業、保健衛生業、接客娯楽業等)、製造業、建設業、運輸交通業、林業の順に多く、事故の型別にみると、「転倒」、「墜落・転落」、「切れ・こすれ」の順に多く発生している。

### 3 重大災害は増加

平成 23 年の重大災害は7件発生し、前年と比較して2件増加した。

### 4 本県における死傷労働災害の傾向

建設業における死亡災害の発生割合が全産業の 37.5%を占め、また、林業における死傷者数の割合が全産業の 8.2%（平成 23 年）を占めている。

### 5 九州沖縄ブロックでは死傷災害が 2 年連続増加

死亡災害は 122 人と 27 人減少したが、死傷災害は 14,204 人と前年比で 9 人増加した。

## 【添付資料】

- ① **別添** 平成23年の宮崎県内における死傷労働災害発生状況の概要
- ② **資料番号 1** 平成23年死亡災害発生状況一覧表
  - ・平成23年中に発生した死亡労働災害の概要を示している。
- ③ **資料番号2** 業種別・署別災害発生状況(休業4日以上)
  - ・タテは業種別に、ヨコは労働基準監督署管轄別に死亡・休業4日以上の労働災害発生件数を示している(上段は平成22年、下段は平成23年分)。
- ④ **資料番号3** 労働災害発生状況
  - ・平成13年以降の死亡者数及び死傷者数の推移を示している。
  - ・第三次産業は商業、金融・広告業、映画・演劇業、通信業、教育・研究業、保健衛生業、接客娯楽業、清掃・と畜業、その他の事業の合計値となっている。
- ⑤ **資料番号4の1～4の4** 平成23年【全産業】死傷病報告による災害分析
  - ・平成23年中に発生した死傷災害について業種別、事業場規模別、事故の型別、起因物別、経験期間別、年齢別、休業期間別、月別、時間帯別、曜日別、性別に示している。
- ⑥ **参考** 九州・沖縄ブロックでは死傷災害が 2 年連続して増加

## ① 別添 平成23年の宮崎県内における死傷労働災害発生状況の概要

### 1 平成23年の死亡災害発生状況（資料番号1及び同3参照）

- ・平成23年の労働災害による死亡者数は8人(8件)で、前年比9人(9件)減(-47.1%)と、平成20年以来、3年ぶりに減少に転じました。
- ・業種別にみると、建設業が3人(3件)と最も多く、次いで林業2人(2件)、第三次産業2人(2件)の順となっています。平成22年と比較すると、製造業、林業、運輸交通業で減少しましたが、建設業、第三次産業では横ばいとなっています。
- ・事故の型別にみると、「墜落・転落」が3人(3件)と最も多くなっています。
- ・6月には熱中症による死亡災害も発生しています。
- ・起因物別では「地山・岩石」が2人(2件)と最も多くなっています。
- ・年齢別では50歳代が5人(5件)と最も多くなっています。
- ・経験期間別では5年未満が4人(4件)と最も多くなっています。

### 2 平成23年の死傷災害(休業4日以上)発生状況

(1)死亡者を含んだ休業4日以上の死傷者数は1,352人で、前年比21人減(-1.5%)と、平成21年以来2年ぶりに減少に転じました。

業種別にみると、第三次産業が510人(37.7%)と最も多く、次いで製造業320人(同23.7%)、建設業190人(同14.1%)、運輸交通業120人(同8.9%)、林業111人(同8.2%)の順となっています。

平成22年と比較すると、

増加した主な業種：林業(106人→111人)、商業(137人→165人)

減少した主な業種：製造業(353人→320人)、建設業(215人→190人)

等となっています。(資料番号3参照)

(2)事故の型別にみると、全産業では「転倒」(23.0%)が最も多く、次いで「墜落・転落」(16.3%)等の順になっています。

業種別にみると、製造業では「はさまれ、巻き込まれ」(26.6%)が最も多く、次いで「転倒」(25.0%)等の順になっており(資料番号4-2参照)、建設業では「墜落、転落」(34.2%)が最も多く、次いで「切れ、こすれ」(11.6%)等の順に(資料番号4-3参照)、林業では「切れ、こすれ」(27.9%)が最も多く、次いで「激突され」(17.1%)等の順になっております(資料番号4-4参照)。

平成22年と比較すると、

増加した主な事故の型：「転倒」(268人→311人)、「墜落、転落」(206人→220人)

減少した主な事故の型：「はさまれ、巻き込まれ」(189人→163人)

「切れ、こすれ」(180人→165人)

等となっています。

(3)起因物別にみると、全産業では「仮設物、建築物、構築物等」(23.2%)が最も多く、次いで「物上げ装置、運搬機械」(19.3%)等の順になっています。

業種別にみると、製造業では「動力機械」(29.1%)が最も多く、次いで「仮設物、建築物、構築物等」(22.2%)等の順になっており(資料番号 4-2 参照)、建設業では「仮設物、建築物、構築物等」(21.1%)が最も多く、次いで「その他の装置等」(18.9%)等の順に(資料番号 4-3 参照)、林業では「環境等」(47.8%)が最も多く、次いで「動力機械」(28.8%)等の順になっております(資料番号 4-4 参照)。

平成 22 年と比較すると、

増加した主な起因物：「仮設物、建築物、構築物等」(286 人→314 人)

「環境等」(97 人→130 人)

減少した主な起因物：「物上げ装置、運搬機械」(302 人→261 人)

「その他の装置等」(224 人→215 人)

等となっています。

(4)年齢別では、50歳代が402人(29.7%)と最も多く、次いで30歳代(17.8%)、60歳代(17.7%)の順となっています。

経験期間別では5年未満が394人(29.1%)と最も多く、次いで1年未満286人(21.2%)となっています。(資料番号 4 参照)

### 3 平成23年の重大災害発生状況

・平成23年の重大災害(一時に3人以上の労働者が業務上死傷又はり病した災害)は7件で、前年比2件増となりました。

・事故の型別にみると、「交通事故」が5件となっています。

### 4 本県における死傷労働災害の傾向と特徴

・本県における死傷労働災害の特徴として、建設業における死亡災害の発生割合が全産業の37.5%を占めていることが挙げられます。

・また、林業における死傷者数の割合が全産業の8.2%(平成23年)を占めており、全国における割合約2%(平成22年)と比べて4倍程度高くなっています。

・さらに、高齢労働者の労働災害が増加していることも挙げられます(年齢別では50歳代が全体の29.7%)。

### 5 「新成長戦略」との関係

平成22年6月に閣議決定された「新成長戦略～「元気な日本復活」のシナリオ～」では、「2020年までに全国の労働災害発生件数を3割削減する。」との目標が掲げられたところですが、その初年

である平成 22 年においては全国でも、県内においても死亡災害が大幅に増加していた状況です。宮崎労働局におきましても県内の労働災害を減少させるために全力で取り組みます。

## 6 宮崎労働局の取組

平成 23 年に発生した死亡災害の半数近くを占めた墜落・転落災害をはじめとし、熱中症対策等について、労働安全衛生法令の遵守はもとより、労働災害防止対策の徹底を図っていきます。

また、平成 23 年に死傷災害が増加した林業、第三次産業には特に重点を置き、管下労働基準監督署においては監督指導等の強化、労働局においては関係機関、関係事業者団体等との連携強化及び事業主等への周知啓発などに取り組みます。

さらに、景気の影響や厳しい企業競争の中で事業場における安全への取組が停滞することがないよう、リスクアセスメントの実施の促進等により、企業における自主的な安全活動の活性化を進めていくこととします。

⑥ 参考

## 九州・沖縄ブロックでは死傷災害が2年連続して増加

### 1 九州・沖縄ブロックにおける概況

【死亡災害】 122人（平成22年 149人） 前年比 18.1%の減少

死亡災害は、平成19年からの5年間で最少となり、特に、建設業や運輸交通業での減少率が高くなっている（別添1「九州・沖縄ブロック 年別・業種別死亡災害発生状況」参照）。

【死傷災害】 14203人（平成22年 14194人） 前年比9人の微増

死傷災害（死亡災害と休業4日以上 of 災害の合計）は、平成19年から平成21年までの間に約11%減少したが、平成22年に前年比で増加に転じ、平成23年も前年比で微増となった。

業種別に見ると、製造業、建設業では平成22年まで減少を続けた後、平成23年はほぼ横ばいとなっており、運輸交通業では増減を繰り返しながらも中期的には減少傾向となっている。

一方、平成19年以降、小売業では横ばい、社会福祉施設では増加傾向が続いており、平成22年以降は小売業と社会福祉施設を合計した災害件数が建設業を上回るに至っている。

全産業合計の災害総数に占める業種別の割合においても、建設業が平成19年の16.8%から平成23年の14.7%に低下し、その他の事業（いわゆる「第三次産業」）では平成19年の39.9%から平成23年には43.4%に高まっており、産業構造の変化が労働災害発生件数にも影響を及ぼしている（別添2「九州・沖縄ブロック 年別・業種別死傷災害発生状況」参照）。

## 九州・沖縄ブロック 年別・業種別死亡災害発生状況

業種	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年
製造業	24	26	28	22	23
	100	108.3	116.7	91.7	95.8
鉱業	3	1	1	1	1
	100	33.3	33.3	33.3	33.3
建設業	51	64	50	48	39
	100	125.5	98.0	94.1	76.5
運輸 交通業	29	32	11	18	18
	100	110.3	37.9	62.1	62.1
道路貨物 運送業	26	26	9	16	16
	100	100.0	34.6	61.5	61.5
貨物取扱業	0	3	0	2	0
	100	∞	100	∞	100
農業・水産業・ 畜産業	2	8	3	12	2
	100	400.0	150.0	600.0	100.0
林業	12	10	8	10	9
	100	83.3	66.7	83.3	75.0
その他の 事業	22	18	33	36	30
	100	81.8	150.0	163.6	136.4
小売業	6	4	9	8	12
	100	66.7	150.0	133.3	200.0
社会福祉 施設	1	0	3	1	1
	100	0	300.0	100.0	100.0
全業種計	143	162	134	149	122
	100	113.3	93.7	104.2	85.3

(注) 上段：死傷災害件数 下段：平成 19 年を 100 とした指数

## 九州・沖縄ブロック 年別・業種別死傷災害発生状況

業種	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年
製造業	3830	3653	3210	3150	3197
	100	95.4	83.8	82.2	83.5
鉱業	50	38	35	38	29
	100	76.0	70.0	76.0	58.0
建設業	2666	2411	2127	2085	2089
	100	90.4	79.8	78.2	78.4
運輸 交通業	1955	1910	1700	1815	1763
	100	97.7	87.0	92.8	90.2
道路貨物 運送業	1667	1586	1393	1493	1449
	100	95.1	83.6	89.6	86.9
貨物取扱業	158	166	132	139	136
	100	105.1	83.5	88.0	86.1
農業・水産業・ 畜産業	441	455	417	454	451
	100	103.2	94.6	102.9	102.3
林業	400	393	385	390	379
	100	98.3	96.3	97.5	94.8
その他の 事業	6318	6385	5987	6123	6159
	100	101.1	94.8	96.9	97.5
小売業	1501	1497	1457	1507	1513
	100	99.7	97.1	100.4	100.8
社会福祉 施設	549	573	601	667	718
	100	104.4	109.5	121.5	130.8
全業種計	15818	15411	13993	14194	14203
	100	97.4	88.5	89.7	89.8

(注) 上段：死傷災害件数 下段：平成 19 年を 100 とした指数



## 平成23年死亡災害発生状況一覧表

宮崎労働局

番号	災害発生月	事故の型	起因物	業種	性別	年齢	経験期間	災害の概要
1	2月	崩壊・倒壊	地山、岩石	土木工事業	女	50	7年	汚水管布設工事で、一度布設した汚水管の位置調整を行うため、ドラグ・ショベル等で約2.5m掘削して位置調整を行ってから深さ1.7mまで埋め戻し、土止め支保工を撤去した。その後、被災者他1名が埋め戻しをするため掘削溝の中に入ったところ、長さ約3.5m、幅約0.6m、高さ約1.7mにわたって地山が崩壊し被災した。
2	3月	はさまれ・巻き込まれ	トラック	産業廃棄物処理業	男	33	2年	駐車場の車両入れ替えを行うため、被災者がパッカー車（最大積載量4トン）を移動してからその後方を歩いて次に移動するトラックに向っていたところ、後退してきた別のトラック（最大積載量4トン）とパッカー車の間に挟まれた。
3	4月	墜落・転落	地山、岩石	木材伐出業	男	65	4年	被災者がドラグ・ショベルで集材土場を造っていたところ、足下の路肩が幅4mに渡って崩壊したため、ドラグ・ショベルとともに約70m転落した。
4	5月	墜落・転落	開口部	建築工事業	男	59	3年	RC造校舎（地上6階、地下1階）の建築現場で、地下1階のデッキスラブの開口部からパイプサポートを下に降ろしていたところ、約2.8m下のコンクリート床に墜落した。
5	6月	高温・低温の物との接触（熱中症）	高温・低温環境	その他の林業	男	51	30年	炎天下で約6時間の下刈り作業に従事し、作業終了後に座り込んで意識を失った。医療機関で3日後に死亡した。
6	10月	転倒	その他の動力運搬機	その他の教育研究業	男	50	2年	ヤシの木の害虫駆除作業を行うため、葉を散布する乗用式農業機械を移動させていたところ、下り勾配の作業路で法面に乗り上げて横転し、運転していた被災者が運転転席から投げ出されて被災した。
7	12月	墜落・転落	足場	土木工事業	男	48	30年	橋梁新設工事において、吊り足場上から橋桁歩道部の補修工事を行うおうとしていたところ、足場部材の縦単管が脱落して作業床が宙吊りになり、被災者が約8m下の河川敷に墜落したものと推定される。

## 脳・心臓疾患による死亡者

8	7月	その他	起因物なし	電気機械器具製造業	男	39	16年	工場内において作業を行っていた被災者が、過重労働によりくも膜下出血を発症し死亡した。
---	----	-----	-------	-----------	---	----	-----	--

## 業種別・署別災害発生状況(休業4日以上)

宮崎労働局

統計集計日  
3月31日※上段  
※下段死亡災害：平成22年確定  
死亡災害：平成23年確定休業災害：平成22年確定  
休業災害：平成23年確定

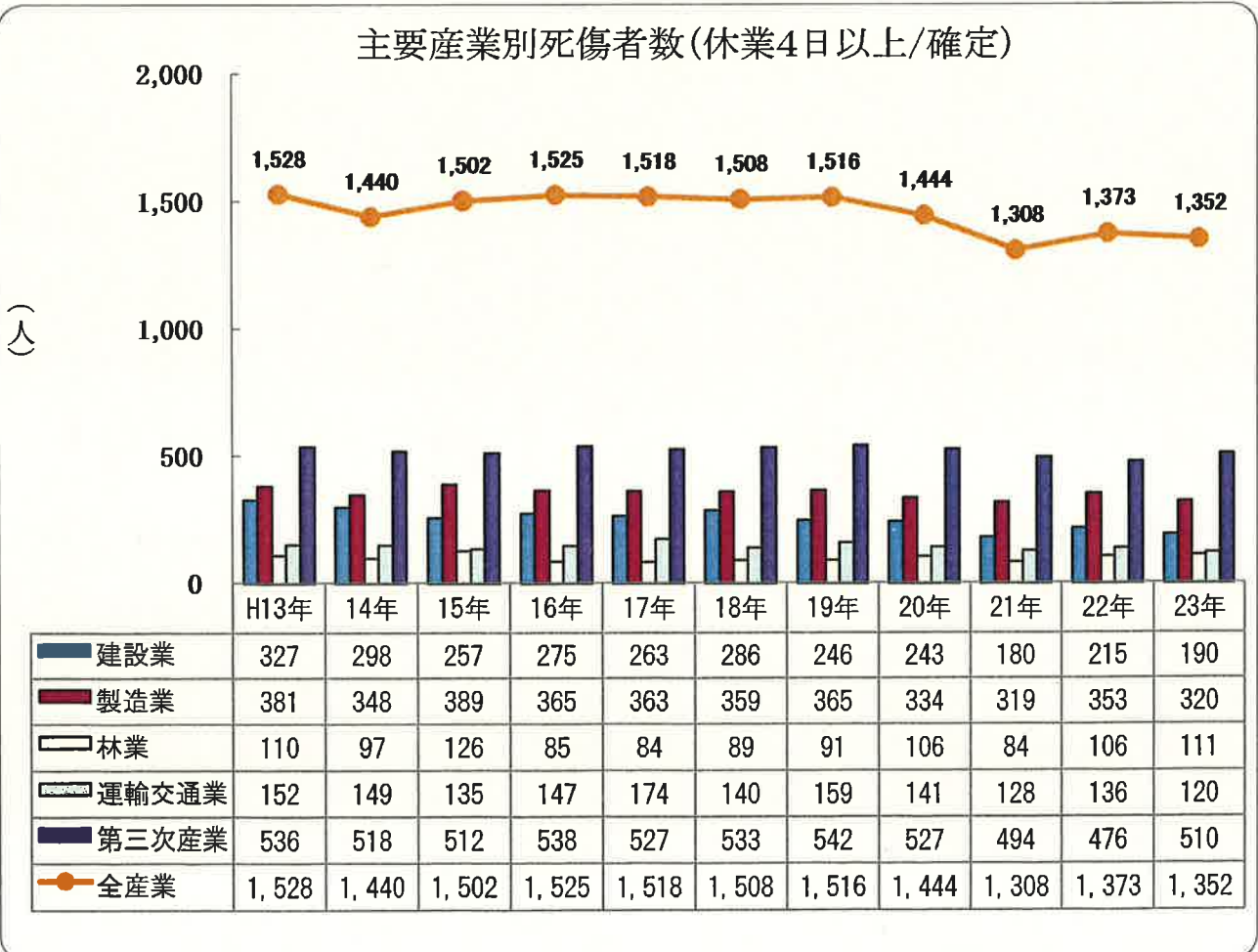
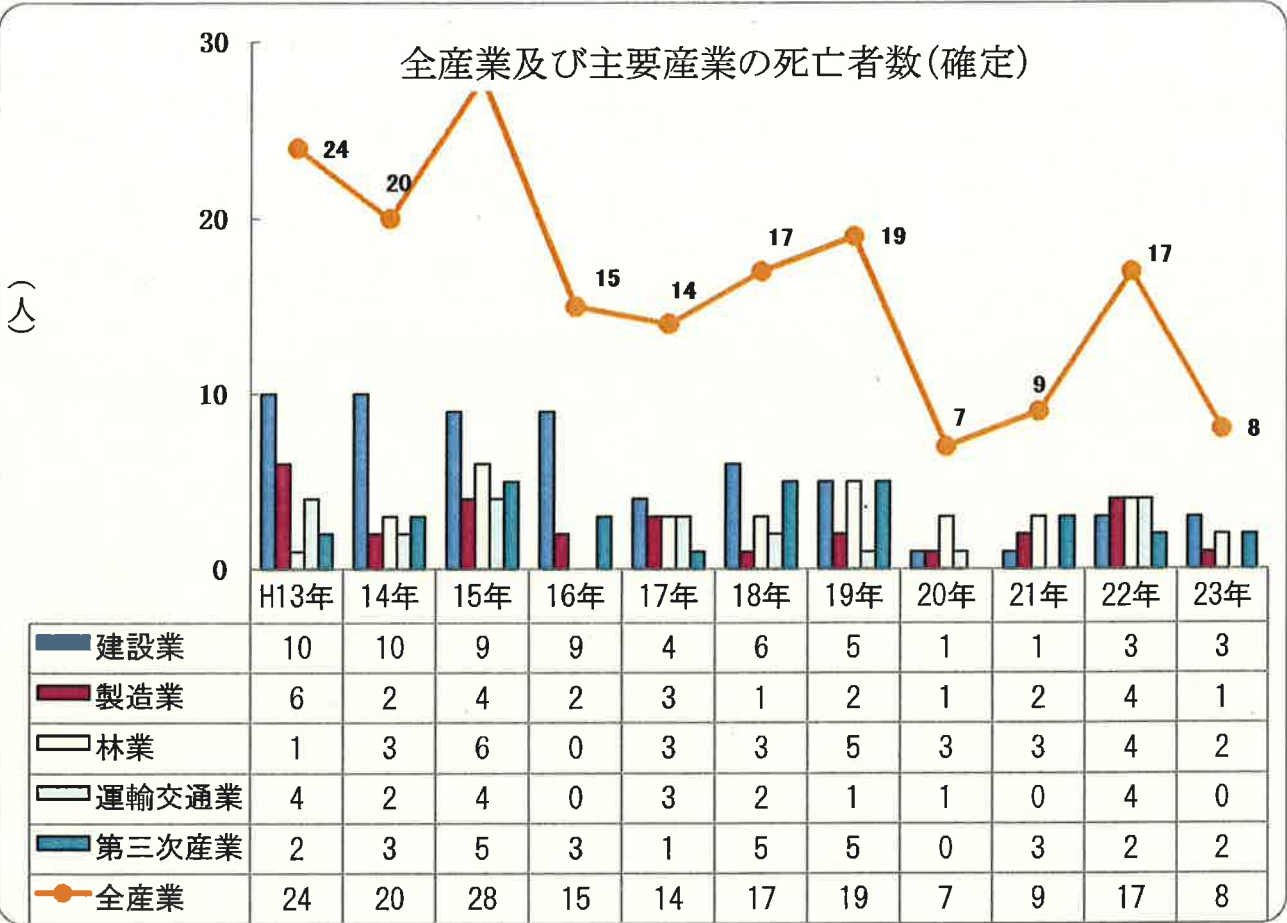
資料番号 2

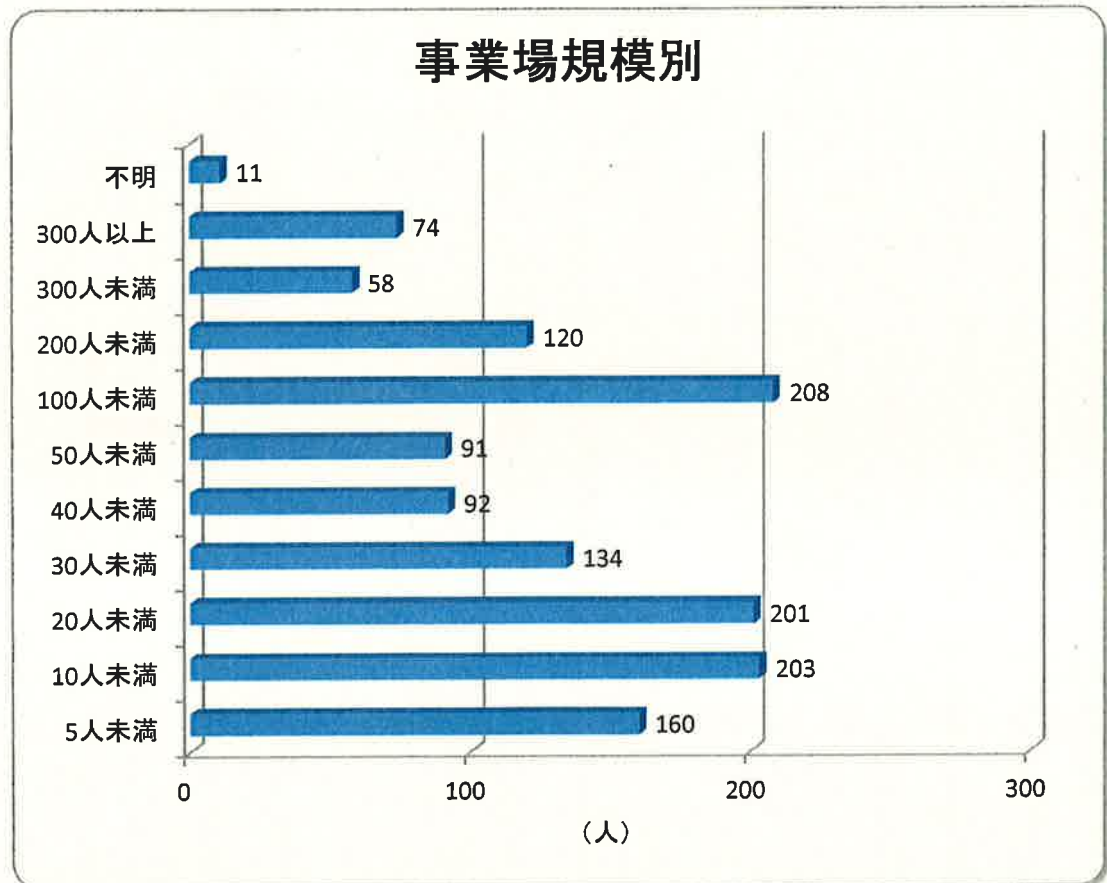
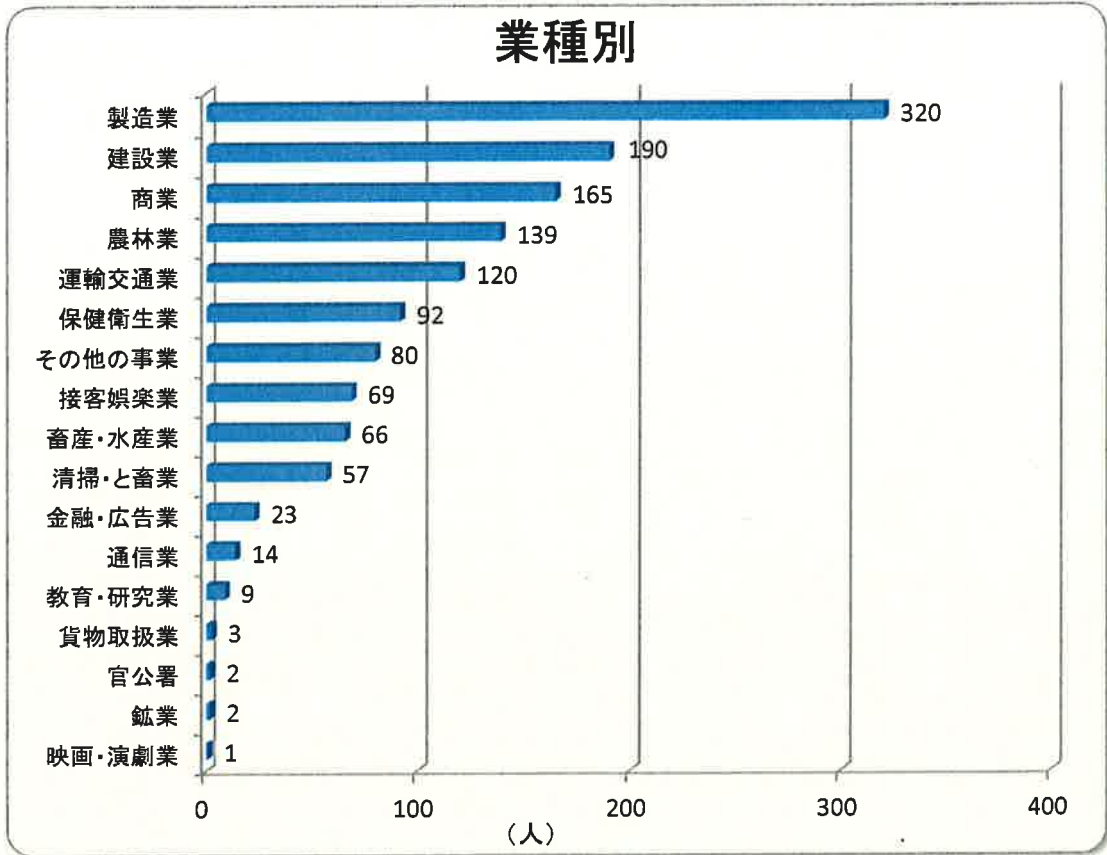
	合計			宮崎署			延岡署			都城署			日南署		
	死亡	休業	計	死亡	休業	計	死亡	休業	計	死亡	休業	計	死亡	休業	計
<b>01製造業</b>	4	349	353		121	121	3	76	79		121	121	1	31	32
	<b>1</b>	<b>319</b>	<b>320</b>		<b>116</b>	<b>116</b>		<b>57</b>	<b>57</b>		<b>120</b>	<b>120</b>	<b>1</b>	<b>26</b>	<b>27</b>
01食料品		179	179		73	73		44	44		58	58		4	4
		<b>147</b>	<b>147</b>		<b>62</b>	<b>62</b>		<b>28</b>	<b>28</b>		<b>51</b>	<b>51</b>		<b>6</b>	<b>6</b>
04木材・木製品	1	71	72		14	14	1	11	12		30	30		16	16
		<b>69</b>	<b>69</b>		<b>9</b>	<b>9</b>		<b>11</b>	<b>11</b>		<b>36</b>	<b>36</b>		<b>13</b>	<b>13</b>
09窯業土石	2	9	11		4	4	2	2	4		3	3			
		<b>14</b>	<b>14</b>		<b>5</b>	<b>5</b>		<b>6</b>	<b>6</b>		<b>3</b>	<b>3</b>			
12金属製品		19	19		5	5		6	6		7	7		1	1
		<b>15</b>	<b>15</b>		<b>4</b>	<b>4</b>		<b>3</b>	<b>3</b>		<b>8</b>	<b>8</b>			
13～15機械器具		12	12		3	3		7	7		1	1		1	1
	<b>1</b>	<b>19</b>	<b>20</b>		<b>9</b>	<b>9</b>		<b>3</b>	<b>3</b>		<b>5</b>	<b>5</b>	<b>1</b>	<b>2</b>	<b>3</b>
<b>02鉱業</b>		6	6					1	1		4	4		1	1
		<b>2</b>	<b>2</b>								<b>2</b>	<b>2</b>			
<b>03建設業</b>	3	212	215	1	90	91	1	59	60	1	50	51		13	13
	<b>3</b>	<b>187</b>	<b>190</b>	<b>1</b>	<b>77</b>	<b>78</b>	<b>1</b>	<b>52</b>	<b>53</b>		<b>46</b>	<b>46</b>	<b>1</b>	<b>12</b>	<b>13</b>
01土木工事	2	80	82	1	46	47		19	19	1	10	11		5	5
	<b>2</b>	<b>72</b>	<b>74</b>		<b>29</b>	<b>29</b>	<b>1</b>	<b>16</b>	<b>17</b>		<b>21</b>	<b>21</b>	<b>1</b>	<b>6</b>	<b>7</b>
02建築工事		87	87		32	32		18	18		30	30		7	7
	<b>1</b>	<b>78</b>	<b>79</b>	<b>1</b>	<b>30</b>	<b>31</b>		<b>23</b>	<b>23</b>		<b>22</b>	<b>22</b>		<b>3</b>	<b>3</b>
(02-02 木造建築)		29	29		15	15		5	5		8	8		1	1
		<b>23</b>	<b>23</b>		<b>8</b>	<b>8</b>		<b>8</b>	<b>8</b>		<b>6</b>	<b>6</b>		<b>1</b>	<b>1</b>
<b>04運輸交通業</b>	4	132	136	2	58	60		26	26	1	44	45	1	4	5
		<b>120</b>	<b>120</b>		<b>52</b>	<b>52</b>		<b>27</b>	<b>27</b>		<b>40</b>	<b>40</b>		<b>1</b>	<b>1</b>
03道路貨物運送	3	114	117	1	46	47		24	24	1	41	42	1	3	4
		<b>107</b>	<b>107</b>		<b>42</b>	<b>42</b>		<b>25</b>	<b>25</b>		<b>39</b>	<b>39</b>		<b>1</b>	<b>1</b>
<b>05貨物取扱業</b>		4	4		1	1		2	2		1	1			
		<b>3</b>	<b>3</b>					<b>1</b>	<b>1</b>		<b>1</b>	<b>1</b>		<b>1</b>	<b>1</b>
<b>06農林業</b>	4	129	133		54	54		34	34	2	32	34	2	9	11
	<b>2</b>	<b>137</b>	<b>139</b>		<b>33</b>	<b>33</b>	<b>1</b>	<b>56</b>	<b>57</b>	<b>1</b>	<b>39</b>	<b>40</b>		<b>9</b>	<b>9</b>
02林業	4	102	106		39	39		34	34	2	22	24	2	7	9
	<b>2</b>	<b>109</b>	<b>111</b>		<b>21</b>	<b>21</b>	<b>1</b>	<b>51</b>	<b>52</b>	<b>1</b>	<b>29</b>	<b>30</b>		<b>8</b>	<b>8</b>
<b>07畜産・水産業</b>		50	50		20	20		3	3		22	22		5	5
		<b>66</b>	<b>66</b>		<b>18</b>	<b>18</b>		<b>7</b>	<b>7</b>		<b>35</b>	<b>35</b>		<b>6</b>	<b>6</b>
<b>08商業</b>		137	137		69	69		26	26		33	33		9	9
		<b>165</b>	<b>165</b>		<b>80</b>	<b>80</b>		<b>34</b>	<b>34</b>		<b>42</b>	<b>42</b>		<b>9</b>	<b>9</b>
01～02卸・小売		126	126		64	64		21	21		32	32		9	9
		<b>147</b>	<b>147</b>		<b>74</b>	<b>74</b>		<b>28</b>	<b>28</b>		<b>36</b>	<b>36</b>		<b>9</b>	<b>9</b>
<b>09金融・広告業</b>		14	14		10	10		2	2		2	2			
		<b>23</b>	<b>23</b>		<b>13</b>	<b>13</b>		<b>2</b>	<b>2</b>		<b>6</b>	<b>6</b>		<b>2</b>	<b>2</b>
<b>10映画・演劇業</b>															
		<b>1</b>	<b>1</b>								<b>1</b>	<b>1</b>			
<b>11通信業</b>		18	18		12	12					6	6			
		<b>14</b>	<b>14</b>		<b>8</b>	<b>8</b>					<b>6</b>	<b>6</b>			
<b>12教育・研究業</b>		7	7		5	5		1	1		1	1			
	<b>1</b>	<b>8</b>	<b>9</b>		<b>5</b>	<b>5</b>		<b>1</b>	<b>1</b>		<b>1</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>2</b>
<b>13保健衛生業</b>		100	100		34	34		34	34		27	27		5	5
		<b>92</b>	<b>92</b>		<b>37</b>	<b>37</b>		<b>26</b>	<b>26</b>		<b>22</b>	<b>22</b>		<b>7</b>	<b>7</b>
<b>14接客娯楽業</b>		75	75		42	42		12	12		15	15		6	6
		<b>69</b>	<b>69</b>		<b>43</b>	<b>43</b>		<b>11</b>	<b>11</b>		<b>10</b>	<b>10</b>		<b>5</b>	<b>5</b>
<b>15清掃・と畜業</b>		49	49		26	26		12	12		10	10		1	1
	<b>1</b>	<b>56</b>	<b>57</b>	<b>1</b>	<b>42</b>	<b>43</b>		<b>5</b>	<b>5</b>		<b>8</b>	<b>8</b>		<b>1</b>	<b>1</b>
(01-01 ビルメン)		21	21		13	13		2	2		5	5		1	1
		<b>26</b>	<b>26</b>		<b>21</b>	<b>21</b>		<b>2</b>	<b>2</b>		<b>2</b>	<b>2</b>		<b>1</b>	<b>1</b>
<b>16官公署</b>															
		<b>2</b>	<b>2</b>					<b>1</b>	<b>1</b>					<b>1</b>	<b>1</b>
<b>17その他の事業</b>	2	74	76	1	42	43	1	9	10		22	22		1	1
		<b>80</b>	<b>80</b>		<b>40</b>	<b>40</b>		<b>13</b>	<b>13</b>		<b>25</b>	<b>25</b>		<b>2</b>	<b>2</b>
(01-01 派遣業)		4	4		2	2					2	2			
		<b>4</b>	<b>4</b>		<b>2</b>	<b>2</b>					<b>2</b>	<b>2</b>			
<b>合計</b>	17	1356	1373	4	584	588	5	297	302	4	390	394	4	85	89
	<b>8</b>	<b>1344</b>	<b>1352</b>	<b>2</b>	<b>564</b>	<b>566</b>	<b>2</b>	<b>293</b>	<b>295</b>	<b>1</b>	<b>404</b>	<b>405</b>	<b>3</b>	<b>83</b>	<b>86</b>

資料出所：労働者死傷病報告

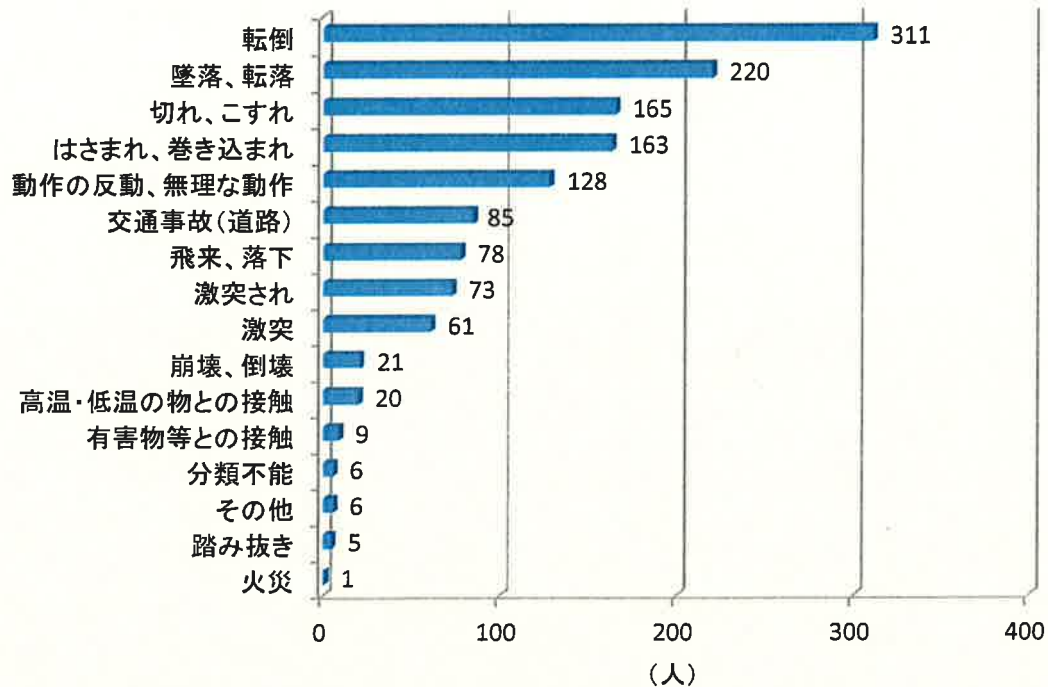
# 労働災害発生状況

宮崎労働局

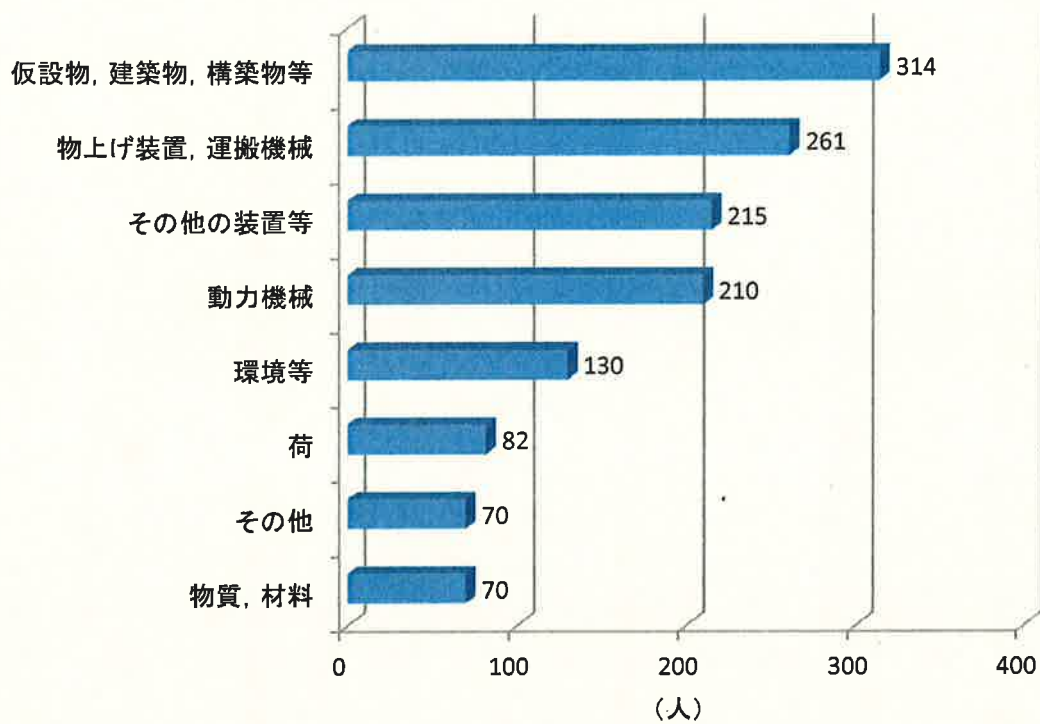




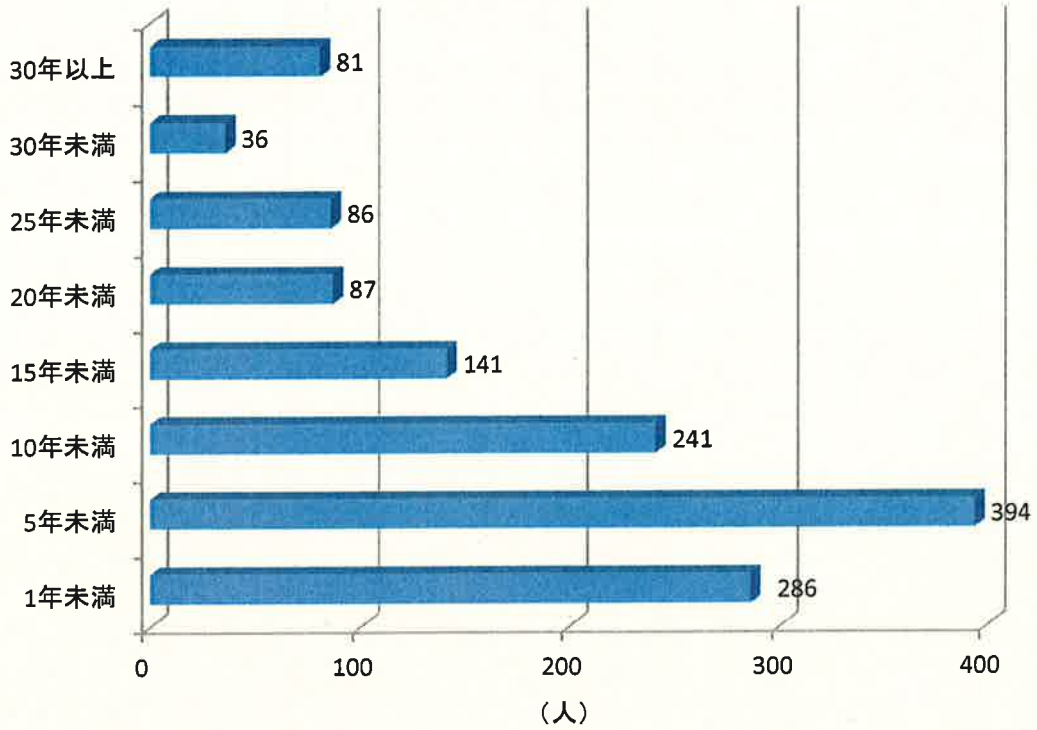
### 事故の型別



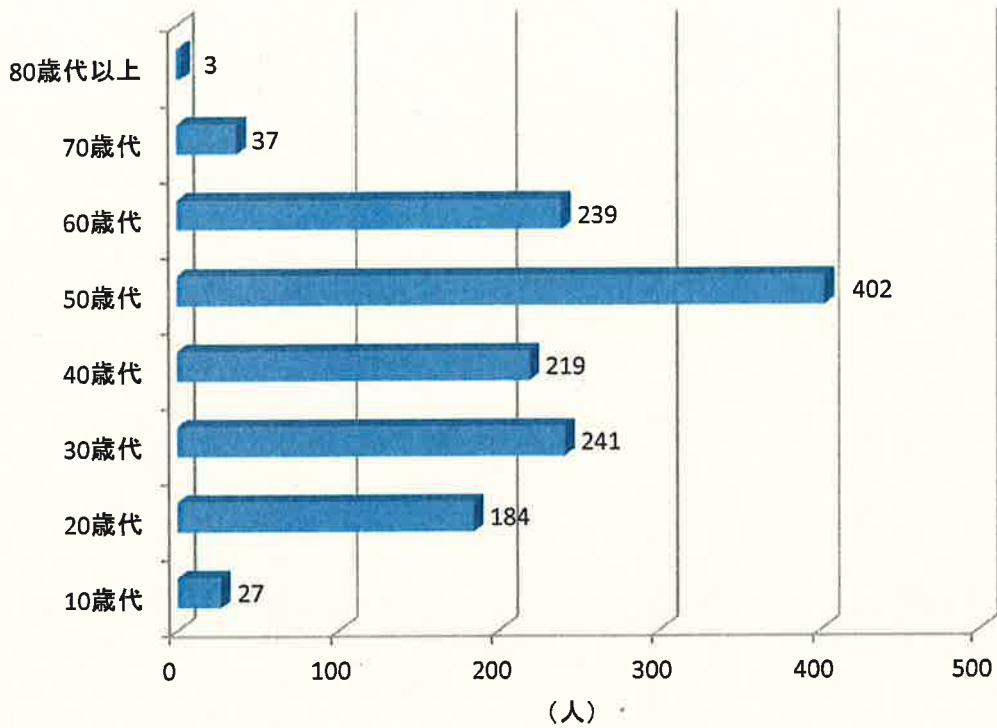
### 起因物別



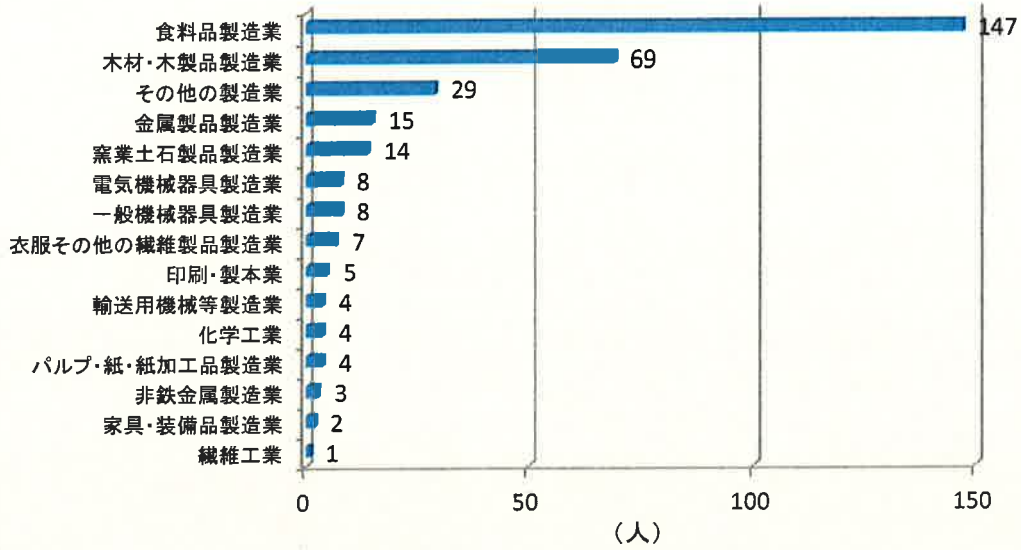
### 経験期間別



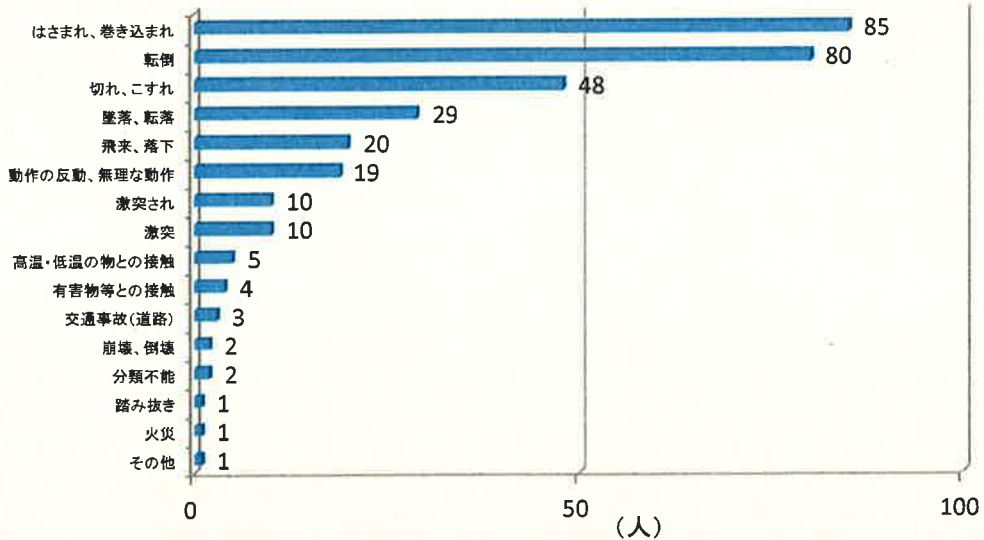
### 年齢別



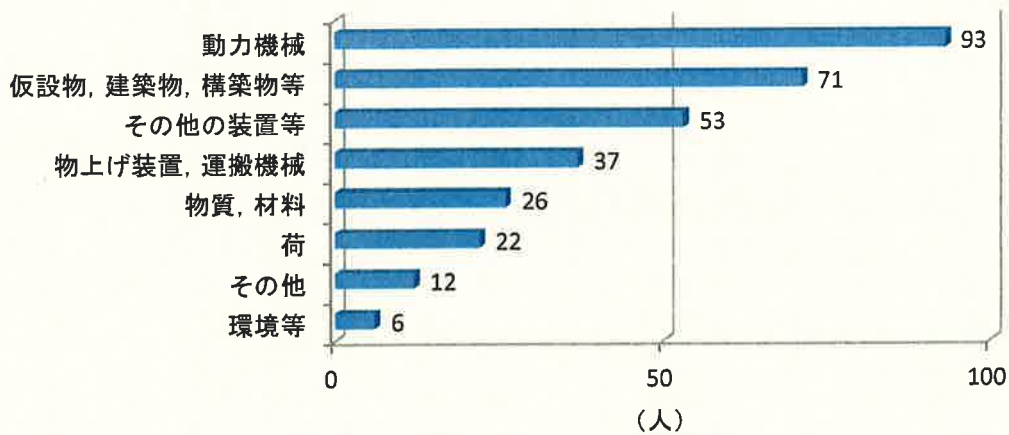
### 業種別(中分類)

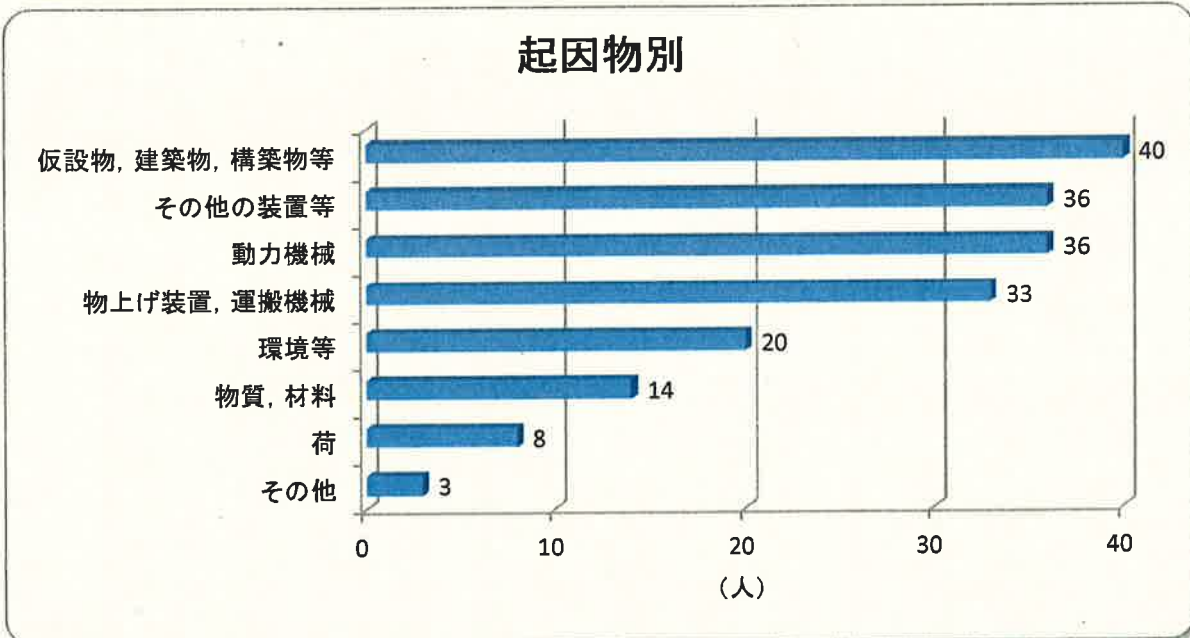
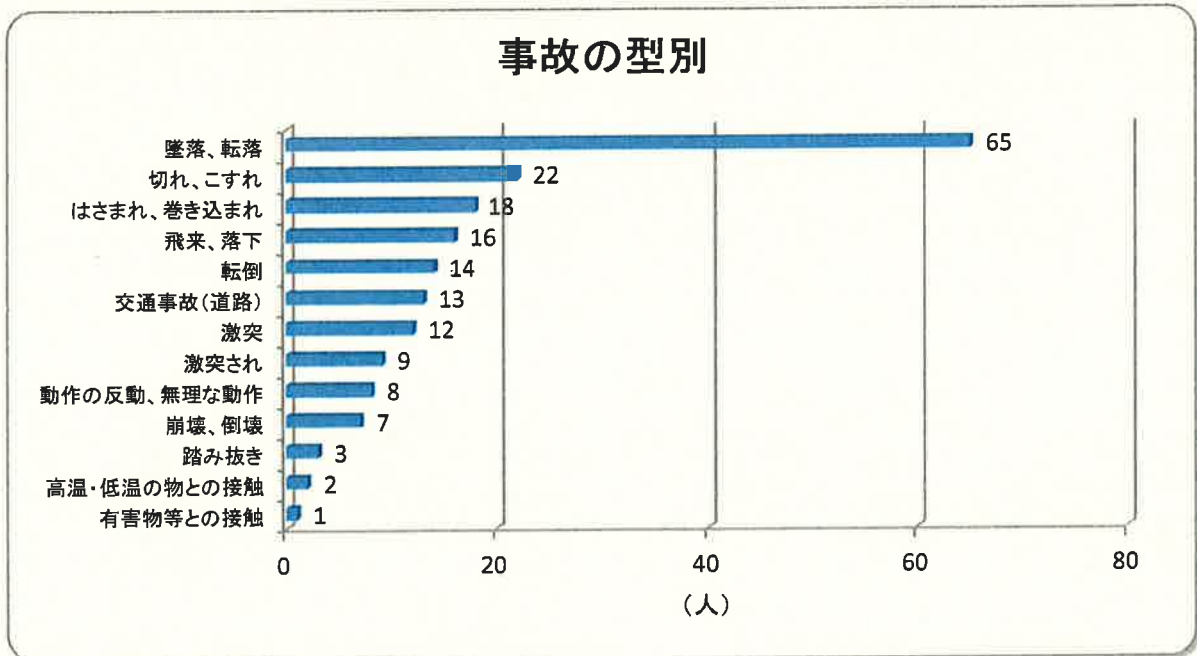
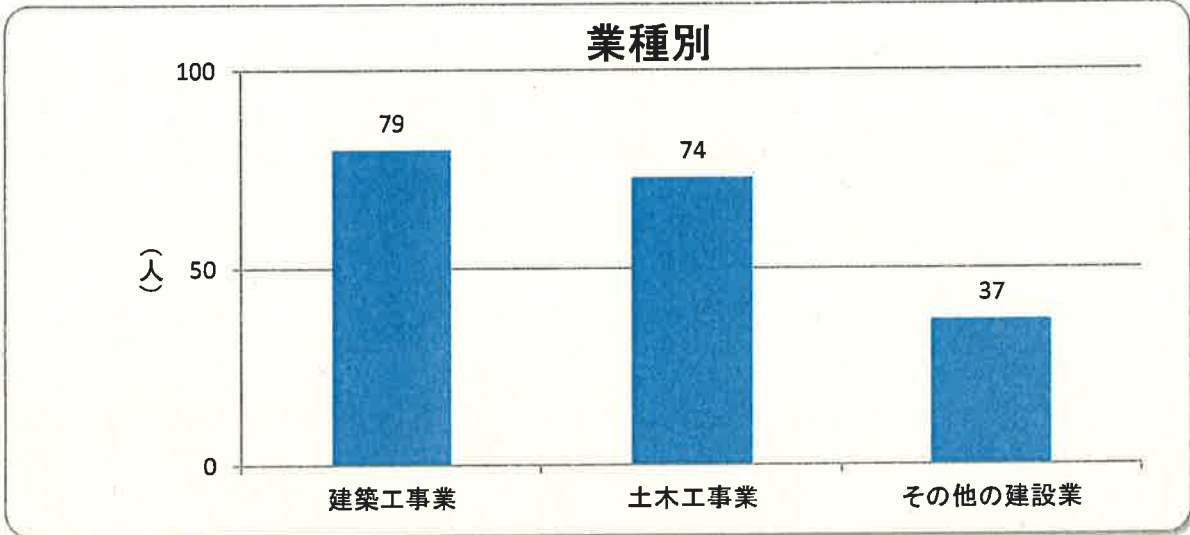


### 事故の型別



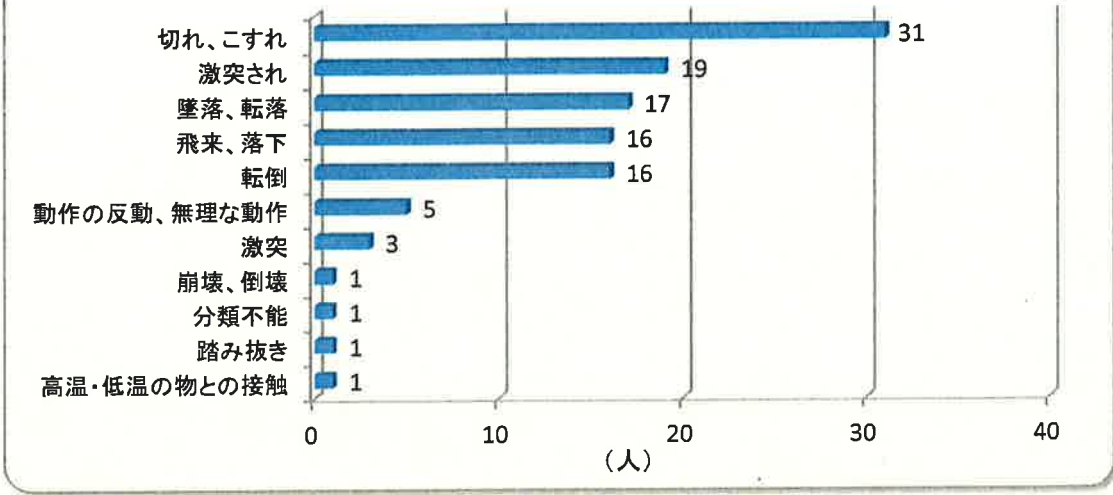
### 起因物別



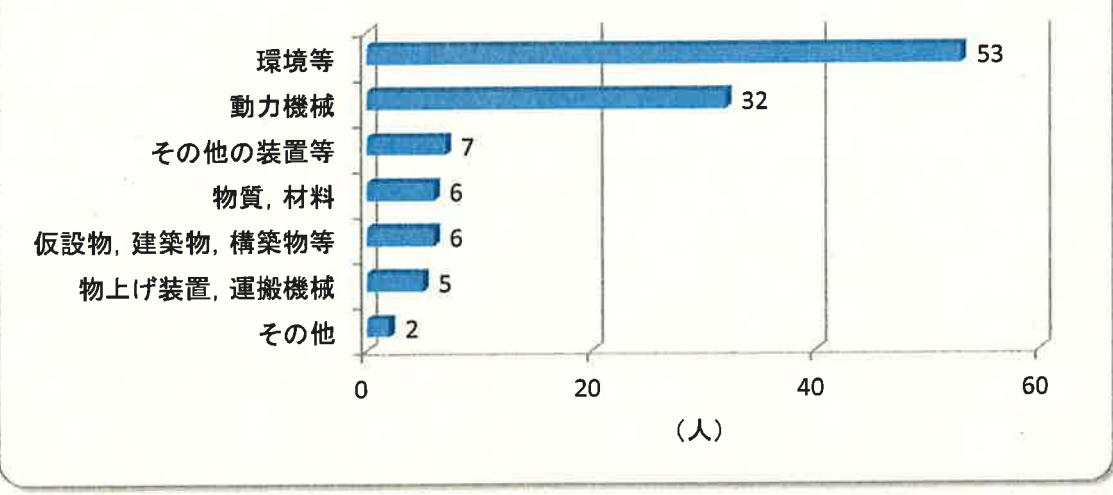




### 事故の型別



### 起因物別



### 経験期間別

